



1. 序論

本研究では大学生の荷物の実態についての研究を行うことを目的とした。まず靴の重量や靴を買い換えるまでの寿命について調査を行った。更に、小学生や中学生を悩ませる学校に勉強道具を置いて帰る置勉の禁止についても調査を行った。

2. 調査方法

2.1 アンケートⅠ：平均重量調査

空き時間の休憩スペースなどにいる本学学生に声を掛け、隔測式電子はかりで重さを測らせてもらう事と「今日の荷物の中で一番重いと思う物は何か」「肩こり・腰痛に悩まされているか」「小中学校で置勉は禁止されていたか」の3つの質問に回答してもらった。

2.2 アンケートⅡ：寿命調査

2018年7月に和洋女子大生に靴の買い換えまでの寿命についてアンケートを行った。

「どのくらいの期間使用したか」使用をやめた理由、「靴の詳細（金額・種類・素材など）」「どの部分から破損したか」「どの程度の不具合までならバッグを使用するか」について質問した。

3. 考察

3.1 重量

和洋女子大学全体で靴の平均重量が 3,650g であった。一例ではあるが小学生のランドセルの平均重量は約 7,700g、中学生の通学用靴の平均重量は約 8600g と比較すると半分以下である。原因として、まず本学の学生にはロッカーが貸与されていることが挙げられる。つまり置き勉は自由である。また、大学生は数多く開講されている講義の中から、敢えて教科書を使わない講義などを受講するように調整する事もできるが、小・中学生は授業内容が予め決められているため選択の余地はない。

大学では学校生活の、自由度が高いということが荷物の重さにも影響したと考えられる。

換言すれば小中学生は重い荷物を強制されているとも言える。

本学学生の学科による差をグラフ化したものを以下に示す。

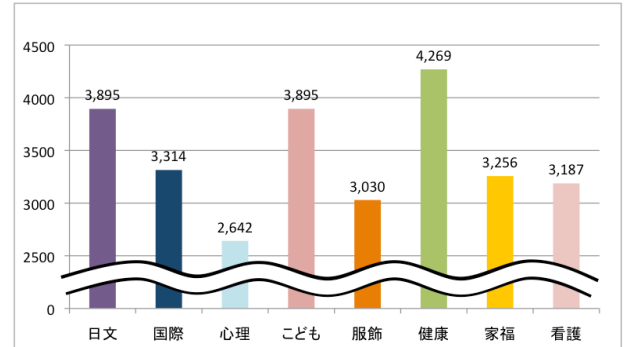


図 1. 学科ごとの平均重量

3.2 寿命

靴の使用をやめる理由は、破損や劣化や汚れなどのやむを得ない理由が多くを占め、ほとんどの人が1年以上靴を使用し続けており、多少の破損や汚れ程度なら使用を続けるという人も多く、この結果からできる限り靴を使用し続けたいと考えている事が分かった。

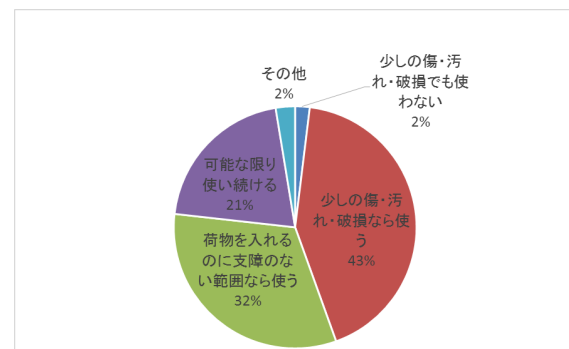


図 2. どの程度の不具合までなら靴の使用を続けるか

4. 総括

今回和洋女子大学に通う学生の荷物を実際に測った際、自分の荷物の重さに驚く学生も多かった。荷物が重く感じた時に荷物の重さを体重計などで測り重さを記録し、軽くなるよう荷物を減らすなどの工夫が肩こり腰痛の予防、バッグの寿命を長くするのに有効な方法だと考える。